



※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

日本大使館の公使、領事がパラワン、バギオを訪問

——外務省調査の一環として、日系人ファミリーの生の声に耳を傾ける

一族で唯一存命の2世を訪ねる

2月5日、日本大使館の花田貴裕公使、山口基頼領事たちの一団が、タイタイ町及びリサール町の残留日本人一家と面接を行うために、パラワンへ向けて出発しました。一行は陸路で5時間、ボートで1時間かけてタイタイ町に到着すると、すぐにシティオ シグピットのハラダファミリーの子孫であるロサリナ モンドラゴンさんの面接を行いました。

翌日の2月6日、一行はリサール町のノーマン S. オング町長を表敬訪問し、その後、オオシタファミリーの2世であるソリダッド・ルロンさんの面接に向かいました。ロサリナさんもソリダッドさんも、それぞれの一族で唯一存命かつ無国籍で残されている2世です。

外務省の面接は、残留2世たちを励まし勇気づけ、親族と繋がる可能性を模索、日本国籍の回復を目指して実施されています。年老いた2世たちの記憶を記録し、本人の意志確認を行ないつつ、ていねいな聞き取りを続けています。1つ1つの面接が、貴重な情報をもたらすものになるのです。

(パラワンスタッフ エメリン・パニャデラ)



バギオのアボンでの面接

2024年2月14日、バギオ市のアボン事務所にて、山口基頼領事による外務省面接が行なわれました。面接にはPNLSCの猪俣典弘代表も同行。北ルソン比日基金

のアーネル・カバニサス事務局長とプロジェクトスタッフである私も同席し、2人の2世のインタビューが実施されました。

1人目は82歳になるバギオ市在住のデアア・トミタさん。デアアさんが、お父さんに教えてもらったという日本の歌を披露し、その場にいた人たちを感動させました。2人目は、78歳のミリアム・

サカイさん。ミリアムさんは住んでいるキリノ州から1人でアボンまで遠路を旅して来られるほどお元気で、持病もなく、父の故郷である日本へ行って、親族と対面するという計画に大いに乗り気になりました。

この外務省による面接調査に先立ち、2月9日は、PNLSCの石井恭子がオンラインでミリアムさんに聞き取り調査を行なっていました。2005年の時点でまだご存命だったミリアムさんのお母さん（1世妻）の当時の陳述書に基づいて、事実関係などを事前に整理するための聞き取りでしたが、当時の陳述書に書かれていなかった詳細も加わり、14日の外務省面接の準備が整いました。

(バギオスタッフ ニダ・ラロコ)



(写真上) デリア・トミタさんを囲んで。(写真下) ミリアム・サカイさんは持病1つなく元気いっぱい



アボンでの面接の様子



市役所の数度にわたる不受理にも諦めず不服申立で勝ち取った国籍回復 死亡後の国籍回復への高いハードル

<不服申立による国籍回復>

ベニータハセガワさんは越前市出身の長谷川繁二さんの子として1922年に生まれましたが、国籍回復をすることなく1999年に病気で亡くなりました。きょうだいの中で唯一生存していた妹のコンチータさんが、2016年に福井家裁武生支部に就籍許可を申し、国籍が回復。それと同時に、越前市役所に対し、ベニータさんの出生事項の記載申出を、2010年に亡くなったきょうだいのイルミナダさんのものと併せて行ないましたが、この2人の遅延登録の出生証明書を市役所は認めず、そろって不受理となりました。その後、何度も再挑戦するものの、ことごとく不受理に。やむなく2021年に福井家裁武生支部に行政処分の不服申立を行なうことにしました。

以後、審判で争っていましたが、2023年11月、武生支部は遅延登録による出生証明書を信用すべき公的記録と認め、越前市役所に対し届出を受理するようにとの審判を下しました。無国籍状態のまま亡くなったベニータさんとイルミナダさんですが、7年という長い歳月を費やし、ようやく国籍回復が実現したのです。

●長谷川ベニータ



神に栄光あれ！ 主よ、私たちの祈りが通じたことを感謝します。待ちに待った願いが叶いました。新年早々、私たち家族に素晴らしい祝福がもたらされました。父、ハセガワ・シゲジの故郷である日本で、子どもたちが生活することを生前の願いとしていた母・ベニータを偲び、家族を代表して、きょうだいのオーロラ、ゼナイダ、エルネスト、カルロス、ミラグロス、デルフィン、レイナルド、ロランド、そして親族一同、PNLSC東京のスタッフ、弁護士、マニラのスタッフに心からの感謝を申し上げます。

(3世 レメディオス・ピアグ)

●長谷川イルミナダ

ある記事で読んだことを思い出しました。「忍耐は目標を達成する鍵である。また、亀は遅くても完走できる」もちろん、PNLSCのスタッフからいつも聞いている "WE NEVER GIVE UP "



という言葉も。この言葉を胸に、私は母の夢である日本国籍取得を目指しました。2010年に母が亡くなったとき、私はPNLSCから要求された必要書類を確保する責任を引き継ぎました。それは長く退屈な作業でしたが、実り多いものでした。皆さんに心から感謝します。目標に向かって懸命に努力する皆さんが、これからも祝福されますように。

(3世 パトリシア・ハセガワ・アバド)



<就籍による国籍回復>

●上原エステルトヨコ(80歳・パラワン州)

必要な書類が通るのに時間がかかったのに加え、メディアの取材を何回も受けましたが、日本の家庭裁判所への申立てがようやく認められて嬉しいです。そのおかげで、私の子どもたちや孫たちが、やっと父の生まれ故郷である日本へ行くことができます。PNLSC代表理事の猪俣さん、日本とフィリピンのPNLSC職員のみなさん、パラワン日系人会、日本大使館の領事、みなさまのご協力とご尽力に感謝します。私たちを助けてくださって、本当にありがとうございました。



●大城フォルトナトカメキチ(84歳・ダバオデオロ州)

このよき報せを聞いて、私たちは本当に嬉しく思っています。祖父に、待ちに待った喜ばしいニュースを伝えたら、祖父の目から涙が溢れました。PNJKと廣田弁護士、PNLSCのみなさまに心からの感謝を申し上げます。

(4世 ケイゼル・ポリナール)



●田中マヌエルショウジ(82歳・アグサンデルスル州)

父マヌエルと私たち一家を代表して感謝申し上げます。私たちは、ほぼ希望を失いかけていましたが、父の国籍回復は、日本に定住するという新たな希望と機会を4世にもたらしました。金弁護士、ヘレンさん、田近さんのたゆまぬサポートとアシスタントに改めて感謝申し上げます。

(3世 グロリア・タナカ・パッチ)



<出生事項記載申出による国籍回復>

●吉田フランスカ



私の母、フランスカは、実の両親であるマサアキ・ヨシダとブリジダ・エンガーニャ・ヨシダの娘です。私が PNLSC からの朗報のメッセージを読んだとき、最初は衝撃を受け、胸が躍りました。フランスカ・ヨシダ・ビルラミルの家族を代表して、申請が承認されたことを心から喜び、感謝し、お礼を申し上げます。

(3世 パブロ・ヨシダ・ビルラミド)



●吉田マリア



亡き母マリア・ヨシダ・メジアに代わり、また情報提供者である私からも、母が日本政府当局に申請した、両親であるマサアキ・ヨシダとブリジダ・ニエバ・エンガーニャの嫡出子であるとの認定が良い結果となったことについて、心から感謝の意を表したいと思います。

(3世 パキート・ヨシダ・マジア)



●吉田ルフィノ



重要な知らせを受け、私たちは喜びで満たされ、長年の献身的な努力と忍耐の証となりました。そしてついに、先祖のルーツを辿り、ヨシダー族の親戚と再会するという家族の夢の実現に一步近づきました。吉田家の2世は、亡き祖父の大切な遺志を尊重し、彼の故郷と出会い、その豊かな文化に浸ることができるこの機会を深く大切にしています。この経験によって、私たちは日本の伝統と直接つながることができます。子どもの頃、母や叔母と一緒に週末になるとバギオへと頻りに赴き、書類整理や日本語セミナーに参加したことを懐かしく思い出します。これまでに費やしてきた多大な努力が結実したことを目の当たりにして喜びに満たされています。愛するおじいちゃんはこの良き日に立ち会うことが叶いませんでしたが、この記念すべき時を彼の魂は喜んでに違いありません。

(4世 リーゼル・ヨシダ・オフィアナ)



第20回PNLSC通常総会を開催、全議案が無事に承認されました！

2024年3月27日、新宿区四谷で第20回総会を開催、49名の正会員のうち10名が出席（うちオンライン参加4名）、書面評決者18名、表決委任者6名の計34名により無事に成立しました。

冒頭に猪俣代表理事が、昨年就籍許可者数が300に達したことや、PNLSC調査で身元が判明した2世数が700人を超えたことを報告。続いて石井事務局長が2023年度の活動報告と決算報告を行ないました。国籍回復を希望する生存者が減少していく一方、パラワン島では新たな残留者が名乗り出ている状況にあることも報告されました。本田佳江監事が「メディア露出も多く寄付も集まったが、円安でフィリピン側の支出が膨らんだ」と指摘。

2024年度活動予算の報告に際しては、エッセイコンテストの書籍化の計画や、就籍が難しい2世の救済のために最終手段としてできることは何か、といったことが熱く議論されました。加えて、今



年度は国籍回復希望者全員を一時帰国させる案が外務省で検討されていることも報告されました。

星長吉理事の辞任により、新たな理事として大野俊氏、大岩直子氏が満場一致で選任され、一言ずつご挨拶いただきました。

「1980年代、90年代に新聞記者として日系人問題を紙面で取り上げても”政府に救済の責任はない”というのが当時の外務省幹部の反応だった。PNLSCの活動の進展に伴って政府の立場も変わってきた。今後は理事として内側からも日系人社会を見ていきたい」（大野）。「弁護士として就籍申立に関わってきたが2世のみなさまのご苦労を資料で拝見し頭の下がる思いだった。ご高齢となり時間との闘いだ、最後の一人までという思いで微力ながら引き続き尽力したい」（大岩）



外務省の第17次調査が終了、結果をまとめました

国籍未回復のままの2世、78%がすでに死亡

フィリピン残留2世の日本国籍回復の加速化を目的に外務省がPNLSCに委託して実施したフィリピン残留日本人第17次調査（2023年6月15日～2024年3月15日）が終了しました。

1年前の2023年3月末時点で日本国籍を希望していた76人中18人が、日本国籍を回復しました。現地での総領事面接、日比両国での調査、東京事務所での資料の翻訳などに予算がついた成果です。他方7人が日本国籍回復を果たす前に亡くなりました。

1年前の2023年3月末時点では342人だった生死不明（消息不明）者が、第17次調査の結果、263人に減少（2024年3月15日時点）。他方、無国籍で生存が確かな2世は1年前の151人から、138人に減少しました（同）。

フィリピンに残留した2世の総数（故人含む）は、1年前は3821人でしたが、新規登録を加え、同時に調査票からわかったデータ不備を修正した結果、3815人となりました。3815人の42%にあたる1615人は日本国籍回復済み、残り58%は未回復。しかも国籍未回復の2220人の78%にあたる1709人はすでに亡くなっています。残りは生存138人、生死不明263人です。

日本国籍未回復で生存の138人中、日本国籍を希望する人は58人（42%）、17人が態度を保留、残る63人は外国籍取得や海外在留のため日本国籍を希望しないという結果でした。

今後は、連絡がとれなくなっている263人の消息調査を引き続き行うと同時に、日本国籍を希望する58人の日本国籍回復に全力で取り組んでいきます。総領事面接が終わっていない22人については、5月初めにパラ

ワンで、7月にビサヤ、ミンダナオで面接を予定しています。

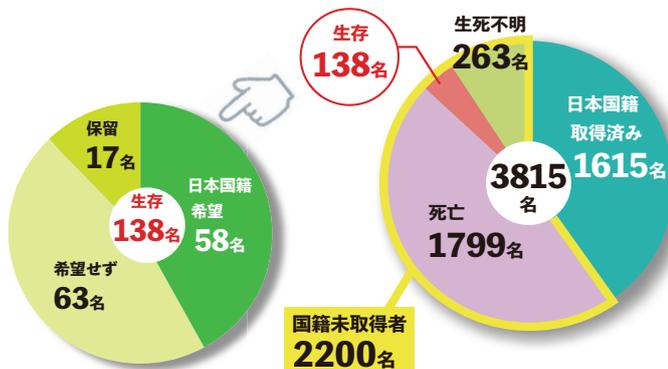
58人のうち6割弱は身元（父親の戸籍）が判明しておらず、また29人は父母の婚姻の立証が困難で、就籍許可のハードルが非常に高いケースです。しかし、幼くして父親と生き別れ/死別したのも、戦争中また戦後生き抜く中で証書が滅失したのも、彼らの責任ではありません。希望する全員が、生きて日本国籍を回復するまでに残された時間は刻一刻と短くなっています。「政府一丸となって取り組む」（岸田首相）との言葉通り、彼らの救済のための立法、特別措置の検討を早急をお願いしたく、ロビー活動も鋭意行なっていきます。

* * * *

3月15日、フィリピンにおける残留日本人2世の出生登録を迅速に進めるため、フィリピン統計庁（PSA）とフィリピン日系人会連合会の会合が開かれました。出生証明書の戦災滅失、または戦中生まれだったり母が少数部族の出身という理由で出生登録自体がない2世が多いことも、フィリピンでの無国籍認定、日本での就籍許可申立がスムーズに進まない要因の1つです。今回の会合で、遅延登録に関する連合会とPSAの協定が再締結されることが決定。全国の自治体に通達が出されれば、登録の迅速化が期待できます。在比日本大使館の花田公使、牧野領事、山口領事にも同席いただき、多大なご尽力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



左からイネス・マリヤリ連合会会長、マパ身分関係登録長官、花田貴裕在日大使館公使、PNLSC Inc. 顧問ズニエガ弁護士



PNLSC20 周年記念エッセイコンテスト、結果発表！

2世から5世まで、34人の”今”の声が届きました

読み応えのある作品が続々と届きました

PNLSC20周年を記念して企画したフィリピン日系人エッセイコンテストに、8歳から90歳まで（2世～5世）の日系人34人から応募がありました。日系人として生きてきた時間や、今思うことなど、心の内側を表現してくれた読み応えのあるものがそろいました。3月12日のオンライン審査会で、それぞれの部門での受賞者が決定しました。受賞者のみなさま、おめでとうございます！ 後日、授賞式を予定しています（詳細未定）。

〈大人部門〉（21作品応募）

特別賞 RHODA JOYCE ALCAIDE MORANDARTE

（在比4世、原文英語）

最優秀賞（金賞） NATSUMI UEMURA ATING

（在比2世、英語）

優秀賞（銀） MERA BASILIONA TAGUCHI

（在日4世、英語）

佳賞（銅） ROEL G. LODRONIO（在比3世、英語）

AIKO MATSUMOTO（在日4世・英語）

〈ユース部門〉（10作品応募）

特別賞 KINTARO GARTH BARTOLOME PADUA

（在日5世・日本語）

最優秀賞（金） DIZZIREE MAE PALMA GIL

（在比5世・日本語）

優秀賞（銀） GIANCARLO O.VILLACIN

（在比5世・英語）

佳賞（銅） ZCHUSKU ZAYMUN A.LIBAGO

（在比4世・英語）

DESIREE B.PAULINO（在比5世・英語）

VILLAREAL KIM AIKO（在日4世 日本語）

〈子ども部門〉（3作品応募）

最優秀賞（金） JOSHUA ALEBANGO PARILLA

（在日5世 日本語）

優秀賞（銀） JUS KENZO TAKUMI（在比4世、英語）

佳賞（銅） VEN KENRI S. AUSTERO（在比4世、英語）

執筆言語：日本語（4）、英語（28）、フィリピン語（2）
年齢層：15歳以下（3）、16-19歳（6）、20-24歳（4）、
25-29歳（4）、30代（6）、40代（2）、50代（5）、
60代（2）、80代（1）、90代（1）



〈審査員コメント〉

「年齢層や世代、幅広い層の日系人から様々な観点からの作品の応募があり、どれも興味深かったが、個人的には父親との思い出や戦争の直接体験を自分の言葉で綴ってくれた2世の作品に魅かれた。次世代に引き継がれるものだと強く思う」米野みちよ（静岡県立大学教授）

「ハワイやカナダなどでは4世ともなると日系人意識は希薄だが、今回は4、5世が日系人としてのアイデンティティを語っていること、若い世代も日本軍の占領に起因するスティグマを継承していることが、興味深かった」大野俊（京都大学東南アジア地域研究研究所連携教授）

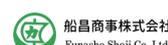
「エッセイを書くことで、それぞれが自分のルーツや家族の来た道について考えたり調べたりした。どの作品も、日系人であることや、その経験について懸命に表現している。このようなアイデンティティの探求を彼らがそれぞれの場で続けていくこと、今回のコンテストがPNLSCのさらなる意義あるプロジェクトにつながることを願う」島田ピトゥイン（法廷通訳・架け橋代表）

「各世代、バラエティに富んだ視点で書かれていて興味深い。過去を振り返った2世、現実やアイデンティティ受け入れの渦中にある若い人、それぞれに心に響くものがあった」ラミレス領事（ミレーン駐日フィリピン大使代理）

「若い人にとって、日系人とは何かについて書くことは大きなチャレンジだったと思う。自分はフィリピン人か日系人かというジレンマや、日本の労働現場での過酷な現実を書いてくれた作品などが心に残った」ズニエガ・シム（弁護士・PNLSC法律顧問）

「2世が質問に応える形でなく、溢れ出る思いや考えを言葉にしてくれたことが新鮮な学びだった。若い人がそれぞれの経験を——つらいものも含めて——シェアしてくれて感謝する。困難を乗り越え、今ベストを尽くしていて、明るい見通しが感じられ、前向きな生き方がすばらしいと思った」イネス・マリヤリ（フィリピン日系人会連合会会長）

このコンテストは以下の9社からご協賛いただき、実現しました。あらためて御礼申し上げます。



5 ● PNLSC NEWS

株式会社浦濱恭 / 株式会社ジェイプラン / 浦濱恭子

有限会社 アイプラン

株式会社 マルツチ

まるほ食品株式会社



日系人メッセージ：ルディ バリエントスさん（4世）

願い叶わず亡くなった父、夢は自身の国籍取得

私は6歳のころにはすでに、自分が日系人であると認識していました。その頃、祖母、愛甲ドロレスと一緒に暮らしていて、祖母は私に、自分の父親が日本人であることや、母親が自分を出産した後亡くなったことなどを話してくれたのです。祖母は父の日本の親戚を探したかったようですが、方法がわからなかったようです。



1世の愛甲武雄とその妻

父もよく、自分の母親の親戚に会うために日本に行きたいと私に語っていましたが、実現することなく、2019年11月に亡くなりました。

子どもの頃、私がつらかったのは、生活のために両親の仕事の手伝いをしなければならず、学校に行けなかったことでした。私たちはよく「プト マヤ」というボホールのお菓子を売って収入にしていました。

私は自分が日系人であることを誇りに思っています。いつか日本に行きたいと願っていたので、そのためにベストを尽くし、同じボホール出身の日系人で親戚でもある笠原ファミリーを通じて2011年にセブ日系人会にたどりつきました。

2023年9月23日、工場労働者として、妻と兄弟とともに初めて日本に来ました。10月には姉が、11月にさらに3人の兄弟といとこが来日しました。エージェンシーは同じですが、私と妻、何人かは群馬県、姉は成田市、他の姉妹2人は静岡にいます。今は、きょうだい10人中9人が日本で働いています！

私は最近職場が変わったばかりで、今、伊勢崎市の建築関係でタイルやインテリア部品の組み立ての仕事をしています。妻は私のいとことともに別の会社で働いています。

私は、日本の清潔なところがとても気に入っています。日本人はフレンドリーで、とても規律正しいです。妻やきょうだいと一緒に日本で働けることがとてもうれしいです。日本の良いところは、良い稼ぎとなる仕事があるため、好きな食べ物や好きなものを買うことができますところ です。

私には4歳と19歳の息子がいます。妻の母がボホールで2人の面倒をみてくれています。私の夢は、2人の息子を日本に呼び寄せ、家族と一緒に暮らすことです。しかし、父の名前が祖母ドロレスの戸籍に登録されていないため、難しいようです。特に、成人に達してしまった長男は……。日本政府に対する私からのたった1つのお願いは、私自身が日本国籍を得ること、そして、ボホールにいる私の2人の息子と日本で一緒に暮らせるようにしてほしい、ということです。

私は今、独学で日本語を勉強しています。なぜなら私は日系人だからです。私自身、日本国籍を取って「愛甲」を名乗り、日本旅券を取得したいのです。

人生を伝える機会を下さり、ありがとうございました。



前の職場の同僚たちと(右端が筆者、隣は妻)



群馬で暮らすきょうだいたちと(筆者は左から3番目)



筆者の家族



会員メッセージ:岡田雅昭さん(オカダ商事代表・団体正会員)

従業員の一言でダバオに飛び、出会った現実

みなさん、はじめまして。株式会社オカダ商事の代表をしております岡田でございます。弊社は茨城県常総市で人材派遣業を営んでおります。従業員約200名のうち、フィリピン日系人150名、ブラジル日系人50名で構成しております。

従業員からの一言でダバオに飛び

私がフィリピンダバオへ渡ったきっかけは弊社従業員の何げない一言でした。「社長、ダバオには沢山の友達がいます。みんな、日本に来て仕事がしたいと言っています。でも、私達も家族に仕送りしたり、毎日の生活が大変で、友達を手伝う事ができません。どうか力を貸して下さい」との事でした。彼の必死の訴えに私はすぐにフィリピンのダバオへ向かいました。現地に到着してまず思った事は、とにかく若い人が多いという事。街の中心地を離れても若者が多く活気がある。これほど活気があるのに本当に仕事がないのかと不思議でした。従業員の友達は、ダバオの市街地から遠く離れた山岳地帯に住んでおりました。

なぜこんな人里離れた場所に住んでいるのだろう。もっと市街地の近くに住めばいいのに。そんな勝手なことを思っていました。市街地に行くのにも時間がかかるだろうし、辺りを見回したところ車がある訳でもない。仕事がないという言葉が脳裏に浮かびました。山を切り開いた場所なので、農業をするにも土地が狭いし、作物の種類は限定的でしょう。その日その日食べていくことで精一杯という様子を感じ取りました。しかし、そんな苦しい境遇でも、毎日を懸命に生きている姿が印象的でした。何としても日本に来てもらい、思う存分働いてもらえればと思ったのです。しかし日本へ渡航し就労するためには、定住者のビザが必要でした。後々わかった事ですが、彼らは出生届の提出が遅延していたのです。両親の誕生日などもわからなかったといいます。これは彼らの祖先が日本人である事を隠して生きてきたためでした。入管への書類の手続きは難航を極めました。

残留者とその子孫たちの戦後の苦境を知る

行き詰まっていたある日、弊社の行政書司よりPNLSCの存在を教えていただきました。いざPNLSCの

事務所に伺って猪俣代表とお話した時に、フィリピン日系人の問題は簡単ではないけれど、絶対に解決しなくてはいけない問題だと感じました。苦しい境遇にある日系人の方たちがどうすれば日本で就労できるかということだけを考えていた自分の思いが変わった瞬間でした。フィリピン日系人達は、戦争が終わった後も自分が日本人である事を隠して生きてきました。そのため非常に貧しい生活を強いられてきた。それが子や孫の代にまで続いているという現状。これは何としても日本人の力で解決しなければならないという思いで正会員になった次第です。今、私ができる事は、フィリピン日系人の現状を日本の人達にお伝えする事ではないかと思っております。日本の中で、フィリピン日系人の知名度がもっとあがれば解決に近づくと信じています。

ナレッジワーカーとしての将来に期待

また、就労においても専門職の免許を取得しスキルアップを目指したり、子ども達においては、高校進学を目指し教育を受けさせる事により、彼らのよりよい将来に結びつくのではないかと考えております。彼らは日本語、英語、タガログ語、ビサヤ語と何カ国語も話せます。今、日本で最も足りないのは語学力ですが、その語学力を普段の生活の中で身につけているのです。その柔軟さや適応力には目を見張るものがあります。これからの日本社会は、さらなるグローバル化が進行し、彼らのような語学力に長けた人間が今まで以上に必要とされるはずで、これからの彼らは、マニュアルワーカーからナレッジワーカーへ転換していかなくてはならないのです。

弊社、株式会社オカダ商事といたしましては、これからもフィリピン日系人のために、全力でサポートし、日本人と日系人がより良く暮らせる社会を目指し、そのお手伝いができればと考えております。



岡田さん(前列右から4人目)と従業員の皆さん



PNLSC 活動報告 (2024.01.01-2024.04.05)

01/05	仕事始め	01/22	クラウドファンディング報告会 (オンライン・猪俣)	石井)	
01/09	事務局会議	01/26	モルモン調査(田近)	02/29	来所: NHKエンタープライズ 伊東さん
01/10	猪俣フィリピンへ	02/02	来所:NHK 安部さん	03/01	来所:オカダ商事
01/11	ファミリーサーチアジア南地 域フォーラム出席(猪俣)	02/04	パラワン出張(総領事面接・ 猪俣)	03/12	エッセイコンテストのオンライ ン審査会(石井)
01/12	かめのりフォーラム大賞授賞式 河合弁護士、石井事務局長出席	02/04	～ 07	03/13	2024年度第一回PNLSC理事会
01/17	青山やまと議員に同行し、フィ リピン移住労働者省大臣訪問、 産業貿易省事務次官訪問、比商 工会議所会頭表敬訪問、越川大 使主催新年祝賀会出席(猪俣)	02/13	～ 14	03/15	外務省第17次調査報告書納品
01/18	来所:在セブ松尾英明総領事、 南東アジア第二課 春原優子 さん	02/15	在マニラ日本大使館主催 天皇 陛下生誕祝賀会出席(猪俣)	03/18	来所:川畑ネナさん、松本セシ ルさん、松本愛子さん
		02/25	来所:奥田税理士	03/27	来所:沖本直子さん
		02/26	会計監査	03/30	第20回PNLSC総会
		02/27	事務局会議	03/30	エッセイコンテスト結果発表 (公式サイトにて)
			外務省南東アジア第二課 中井 裕一課長、春原さん訪問(猪俣、	04/02	事務局会議

ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2024.01.01-2024.04.05)

《新入会》

個人正会員: 奥田幸子、久保ノ谷光
日系人会員: 折手ガブリエル、テラオ メ
ルリーミヤヒラ、トダロメオカシアノ、エ
ステバンレネボーイ

《会員更新》

団体正会員: (有)アイブラン、(株)浦濱
恭、まるほ食品(株)、(株)オカダ商事、
清水木材(株)、(株)マルツチ、トライアン
フ、エヌチキン、(株)共栄保険代行、(株)
アバンセコーポレーション

個人正会員: 関野章、関口恭史、滝健、
永野一郎、北野貴晶、大高純子、保津豊彦、
谷内田育子、竹下潤子、小池満也、飯島
真理子、竹中収、遠藤賢司、田邊正裕、
宮澤吉彦、望月賢司、井上康三郎、高橋

毅、本田孝明、北林光治、松崎富弘、小
島求己、木場紗綾、外菌善一、小林晶子、
大野俊、青木秀茂、河合弘之、塩野克己
個人賛助会員: 久保田直子、笠井庄治、川
瀬真人、佐藤健、内山拓、宮里武志、高良栄
吉、比屋根勉、山本光代、宮城清宏、田所智
子、大友麻子

日系人会員: 成富フェリシアナ、エサキ
ベルニー、マキリンラファエル、金城ロバ
ートフランシスルブリコ、松本アルフレッド、
ミワメルビン、アルベス ファアント、アルベ
スラルニ、オルベスオリバムマル、ヤワカ
ペドロラムシンバオン、カタロニャアレク
クエサキ、ホシコアントニノポト、屋宜ホ
セフィーナミチコ、屋宜ジュリエッタ、屋宜
パブリト、屋宜ポール、屋宜プレシー、屋宜

ペルラ、屋宜プレツェル、屋宜ペルリタ、
屋宜ピンキー

寄付: 石井敏雄、川瀬真人、飯島真理子、
奥田幸子、(株)浦濱恭、ゴトウタカシ、
澤田猛、ばかぼん、成富クリスティナ、マ
キリンラファエル、鍵和田美津子、清水
木材(株)、寺嶋秀司、高橋毅、山本光代、鳥
居弘昌、テラオ メリー ミヤヒラ、今泉光
司、カタロニャ アレック エサキ、竹下潤
子、松崎富弘、ホシコ アントニノ ポト、奥
田よし子、島田ビトウィン、田所智子、山
本敏充、野村雅代、屋宜ホセフィーナミチ
コ、山田浩史、米野みちよ

物品寄付: 大野俊

※認定 NPO への合計 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)

事務局日より

初めての試みとなったエッセイコンテスト、授賞作品は近日中に PNLSC の公
式サイトにて全文掲載予定です。また、今夏には授賞式(対面・オンライン併用)
とエッセイ集の書籍刊行を予定しています。さまざまな世代のフィリピン日
系人の「今の思い」を形にして残すことの意味は大きいと考えています。今年
は 10 月にダバオの日系人会が開催する日比祭に合わせてリッターオブライト
(小規模太陽光発電)の研修も予定しています。日本からのスタディーツアー
も計画していますので、ぜひご参加ください! そしてお願ひばかりで恐縮
ですが、さらなるご支援・ご寄付、あるいは活動をご友人に広めていただく
など、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

マニラ事務所便り

外務省の 17 次調査が終わったばかりです
が、今も、各地の PA とともに 2 世の調査
や総領事との面接を続けています。とり
わけ証拠資料の少ない 2 世たちへの聞き
取りは重要です。遅延登録など、書類作
成における PSA と日系人会連合会との合意
のための話し合いもサポートしています。
ご支援くださるみなさまに感謝の気持ち
を込めて。(エミー&ジェン)

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員

(団体)	入会金	30,000 円
	年会費	24,000 円
(個人)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円

■賛助会員

(団体)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円
(個人)	入会金	1,000 円
	年会費	6,000 円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店
普通 1985293
ゆうちょ銀行 〇一九支店
当座 00130-6-333599

※名義はいずれも「フィリピンニッ
ケイジンリーガルサポートセンター」

発行

認定 NPO 法人

フィリピン日系人リーガルサポートセンター
(Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI
猪俣典弘 Norihiro INOMATA
事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0004
東京都新宿区四谷 1-7 装美ビル 602
TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152
E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

